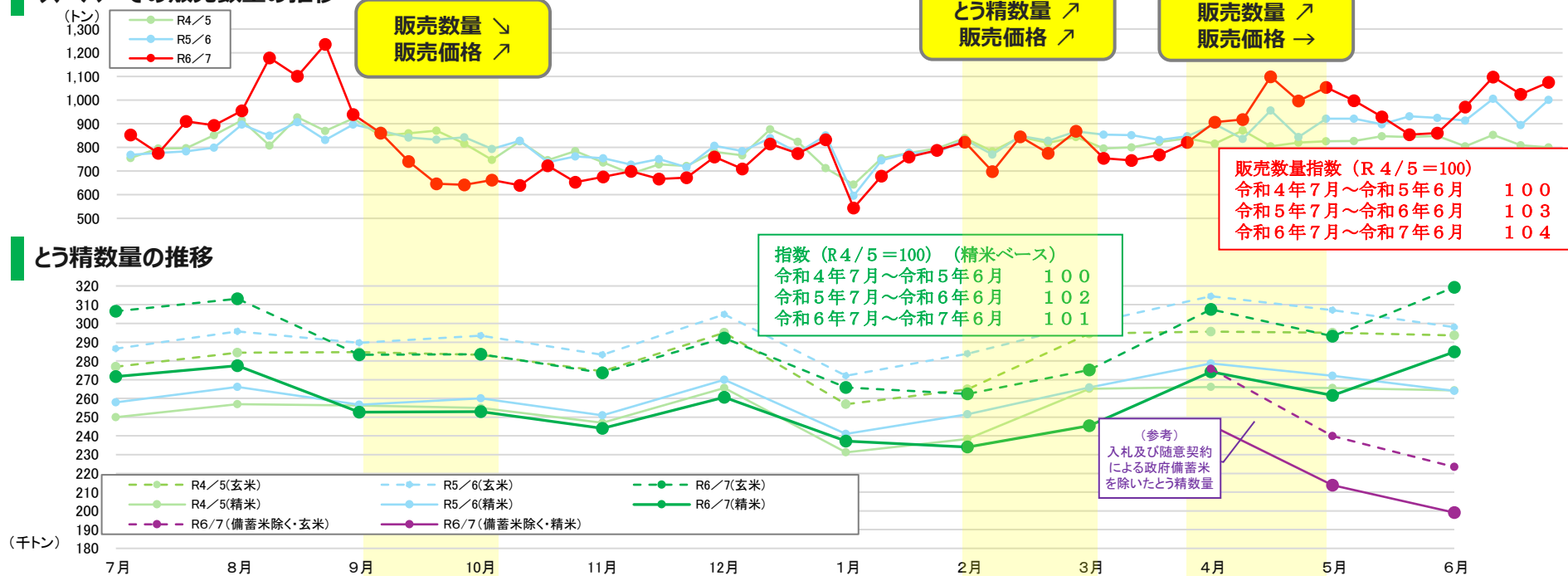


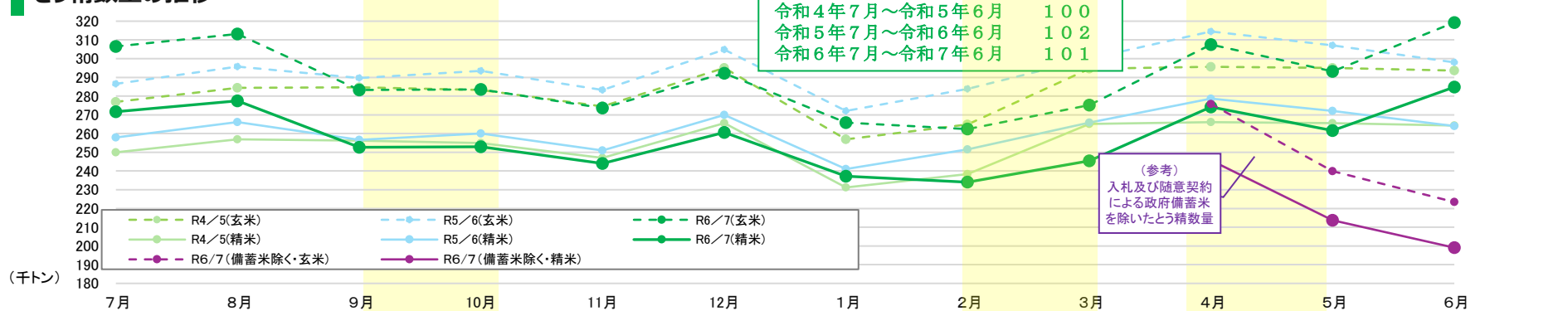
(参考) 令和4年産から6年産までのスーパーでの販売数量・価格、とう精数量の推移

- 令和6年9月～10月頃は、南海トラフ地震臨時情報等に起因する需要増の反動により需要（販売数量）が低下する中で、価格は上昇。令和7年4～5月頃は、需要（販売数量）が増加する中で、価格は横ばい。
- 全体として、精米での米の供給は、令和4年産・5年産・6年産においてほぼ同水準で、米価格が高騰した令和5年産・6年産の供給量は減少していなかった。
- これらを踏まえると、今回の米の価格は、必ずしも消費の実需の動向に一致しておらず、米不足に対する不安など消費者心理にも左右される可能性。

スーパーでの販売数量の推移



とう精数量の推移



スーパーでの販売価格の推移

